

第18回 河川生態学 研究発表会

日時：平成27年11月6日(金)

研究発表会：10:30～17:00

参加費：

無 料

場所：東京証券会館ホール

東京都中央区日本橋茅場町 1-5-8
(裏面参照)

プログラム：

午前の部

- 開会挨拶 10:30～10:35
座長：中村 太士(北海道大学 教授)
- 十勝川研究グループ成果報告 10:35～11:20
座長：島谷 幸宏(九州大学 教授)
- 菊池川研究グループ成果報告 11:20～12:05

昼食休憩

- ポスターセッション 12:05～13:35
12:45～13:35

午後の部

- 斐伊川研究グループ成果報告 座長：山室 真澄(東京大学 教授) 13:35～14:20
- 河川総合研究グループ成果報告 座長：萱場 祐一(自然共生センター長) 14:20～15:05
- 総合討論 15:15～16:45
 - コーディネーター：山室 真澄
 - 中村 太士、島谷 幸宏、萱場 祐一、江崎 保男
- 閉会挨拶 16:45～16:50
(敬称略)

※ 発表会終了後、懇親会を予定しています。(参加費3,000円を予定)

CPD認定：5.5 単位



「第18回 河川生態学術研究発表会」は、土木学会継続教育(CPD)制度に登録されています。

主催：河川生態学術研究会、応用生態工学会

河川生態学術研究会の研究の目的

生態学的な観点より河川を理解し、川のあるべき姿を探ることを目的として実施する。目的の達成に向けては以下のようなテーマを設定し研究を進める。

1. 河川流域・河川構造の歴史的な変化に対する河川の応答を理解する。
2. ハビタットを類型化し、その形成・維持機構、生態的機能を明らかにする。
3. 生物現存量、種構成、生物の多様性、物質循環、エネルギーの流れを明らかにすることにより、河川生態系の構造と機能を解明し、河川に対する生物の役割を明らかにする。これらを用いて河川の環境容量を推定する。
4. 洪水や渇水などの河川が本来持つ攪乱などの自然のインパクト及び河道や流量の管理、物質の流入などの人為的インパクトの影響を明らかにする。
5. 河川環境の保全・復元手法を導入し、その効果を把握・評価する。
6. 1～5に関する結果を総合し、生態学的な視点を加味した河川管理のあり方を検討する。

会場までのアクセス

●東京メトロ 東西線, 日比谷線
茅場町駅 8番出口直結

●都営地下鉄 浅草線
日本橋駅 D2出口 徒歩5分

●JR 東京駅
八重洲北口 徒歩10分



参加申し込み

FaxもしくはE-mailのいずれかでお申し込みください。

宛先：公益財団法人リバーフロント研究所内
河川生態学術研究会事務局 伊藤 将文 行

電話：03-6228-3860 FAX：03-3523-0640

E-mail：rfc-event@rfc.or.jp

ふりがな	
氏名	
所属	
連絡先	E-mail: 電話:
同行者氏名	
懇親会	(いずれかに○) 参加 / 不参加 ※懇親会(18:00~19:30 茅場町近傍を予定)

第18回 河川生態学術研究発表会プログラム

日時：平成27年11月6日

於：東京証券会館(東京都中央区)

[*は発表者]

- I. 開会挨拶 河川生態学術研究会 10:30 ~ 10:35
国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課
- II. 研究グループの研究発表(午前の部)
- 1 十勝川研究グループ 座長:中村太士 代表 10:35 ~ 11:20
中村太士 代表
- ・ 概要説明
 - ・ 景観および水質変化が砂礫性節足動物に与える影響(仮)
* 根岸淳二郎(北海道大学大学院地球環境科学研究院 准教授)
植村郁彦, 照井慧, 三浦一輝, 赤坂卓美, 中村太士
 - ・ 河川-陸域間の食物網をつなぐ消費者の季節的变化
* 照井慧(北海道大学大学院農学研究院 学術研究員)
赤坂卓美, 根岸淳二郎, 植村郁彦, 中村太士
- 2 菊池川研究グループ 座長:島谷幸宏 代表 11:20 ~ 12:05
島谷幸宏 代表
- ・ 概要説明
 - ・ 流域地質の違いは氾濫原性魚類に影響するのか? & 低平地の氾濫原性魚類はどこからやってきた??
* 鬼倉徳雄(九州大学大学院 農学研究院 助教)
澤海人, 甲斐桑梓
 - ・ 菊池川の河道特性の変化と氾濫原依存種保全手法に関する研究
* 皆川朋子(熊本大学大学院社会環境工学専攻 准教授)
- ***** 昼 食 ***** 12:05 ~ 13:35
- III. ポスターセッション(講演会場外) 12:05 ~ 13:35
コアタイム: 12:45 ~ 13:35
- IV. 研究グループの研究発表(午後の部)
- 3 斐伊川研究グループ 座長:山室真澄 代表 13:35 ~ 14:20
山室真澄 代表
- ・ 概要説明
 - ・ 斐伊川放水路による宍道湖へ流入する栄養塩負荷の削減
* 神谷宏(島根県 保健環境科学研究所 専門研究員)
菅原省吾, 田林雄, 清家泰
 - ・ 斐伊川の樹林化の状況と予測法の開発
* 浅枝隆(埼玉大学工学部環境共生学科 教授)
- 4 総合研究研究グループ 座長:萱場祐一 代表 14:20 ~ 15:05
萱場祐一 代表
- ・ 概要説明
 - ・ 長期流量データ解析による国内河川の攪乱レジームの評価
* 三宅洋(愛媛大学大学院 理工学研究科 准教授)
 - ・ 流況指標から捉える国内河川の地理的傾向とダムによる影響
* 森照貴(東京大学 総合文化研究科 日本学術振興会 特別研究員)
- ***** 休 憩 ***** 15:05 ~ 15:15
- V. 総合討論 15:15 ~ 16:45
コーディネーター: 山室 委員
パネリスト: 中村 委員, 島谷 委員, 萱場 委員, 江崎 委員
- VI. 閉会挨拶 応用生態工学会 16:45 ~ 16:50

ポスターセッション

[*は発表者]

1. 十勝川研究グループ

- 1-A: 砂礫性節足動物に対するフラッシュ放流の影響評価: 砂礫堆への再定着パターンと機能の短期的応答
* 今井悠(北海道大学院 環境科学院 修士課程2年)
- 1-B: 十勝川流域河畔林におけるエゾシカ管理への示唆
* 矢部敦子(北海道大学 農学院 修士課程2年)

2. 菊池川研究グループ

- 2-A: 流域地質と溪流河道形態の関係性 - 共通性と特殊性について - (仮)
* 佐藤辰郎(九州大学 持続可能な社会のための決断科学センター 助教)
西田健人, 島谷幸宏
- 2-B: 地質の異なる溪流における流路と河川間隙水域間の水の交換量の比較(仮)
* 笠原玉青(九州大学農学研究院 准教授)
佐藤辰郎, 孫昊田
- 2-C: 地質の異なる菊池川支流間での河床間隙生物の群集構成比較(仮)
* 田中垂季(熊本大学大学院 自然科学研究科 Ph.D)
笠原玉青, 佐藤辰郎, 一柳英隆, 皆川朋子

3. 斐伊川研究グループ

- 3-A: 宍道湖におけるアオコ発生の環境要因とその事前判別
* 佐藤紗知子(島根県 保健環境科学研究所 研究員)
大城等, 馬庭章, 菅原庄吾, 神谷宏, 大谷修司
- 3-B: Dynamic Riparian Vegetation Model and its Application
* Kelum Sanjaya (-)